



Antonie
van
Leeuwenhoek

レーウエンフック没後300年

見えないものを見ようとして

— 顕微鏡が見つけた病 —

2023.9.23 sat — 2024.2.12 mon





アントニ・ファン・レーウェンフック
Antonie van Leeuwenhoek (1632-1723)

1674年の夏の終わり、オランダ・デルフト近郊の湖のほとりにひとりの男がいた。彼の名はアントニ・ファン・レーウェンフック。歴史上はじめて微生物を観察し、後世、「微生物学の父」と称された人物である。

レーウェンフックは17世紀のオランダ・デルフトに生まれた。織物商人、町の役人などの生業の傍ら、自作した顕微鏡でさまざまなものを観察し、記録に残している。あの夏の日湖で汲んだ水の中には“ヘビのように曲がりくねる緑色の紐のようなもの”“緑色のまるい粒”を発見した。彼はその小さなものたちを“animalcules”と呼んだが、それらが何者であるかを知らなかった。なぜなら彼はただの町の商人で、科学についての専門教育を受けていなかったからである。



歴史上、はじめて微生物を見た男。

レーウェンフックは生涯にわたり、500以上の顕微鏡を製作、誰も見たことのないものを目にし、多くの発見をした。その原動力は賞賛の獲得ではなく、知識への渴望であった。



レーウェンフックと彼の顕微鏡が開いた微生物学の扉。その先に広がっていた微生物と感染症とのかかわりを紐解く企画展。
見えないものを見ようとして

レーウェンフック バースデーダンス

10月24日のレーウェンフックの誕生日を記念して
10月ご来場の先着800名様に
記念グッズをプレゼント！（なくなり次第終了）

企画展 開催記念講演

10月22日(日) 14:00～(約45分)
定員30名 ※要申込
レーウェンフックの功績を辿りながら本展のみどころや
感染症の歴史を学芸員が解説します。

公益財団法人 中富記念財団
中富記念くすり博物館
佐賀県鳥栖市神辺町288番地1 TEL 0942-84-3334



開館時間
10時～17時（最終入館は16時30分）

休館日
毎週月曜日（祝日の場合は開館、翌火曜日休館）・年末年始

入館料
大人300円/高・大学生200円/小・中学生100円

- JR鳥栖駅
・タクシー、約10分/徒歩、約40分
・鳥栖市ミニバス 田代地区循環線
「中富記念くすり博物館前」下車のち徒歩2分
＜火・木・土曜日運行＞祝日・年末年始を除く
- 九州新幹線 新鳥栖駅
・タクシー、約10分/徒歩、約50分
- JR弥生が丘駅・タクシー、約3分/徒歩、約25分
- 西鉄小郡駅・タクシー、約15分/徒歩、約60分



fig.a: Abraham de Blois, *Portret van Antonie van Leeuwenhoek*, 1679-1717, Rijksmuseum. (Public Domain) fig.b: Royal Society of London, *Philosophical transactions*, vol.127, July 1676, Natural History Museum Library London. (Public Domain)
fig.c: Leeuwenhoek simple microscope (copy), 1901-1930, Science Museum London. (CC BY 4.0) 背面:ドゥニディド、ジャン・ル・ロン・ダランペールほか「百科全書(図版集)」1751-1772、大阪府立中央図書館 (CC BY 4.0)